

論説

2024年10月12日

杜陵高100周年

盛岡市の杜陵高(三田正巳校長)は創立100周年を迎え、きょう記念式典が行われる。勤労学生の夜学に始まった歩みは一世紀の時を経て、不登校など多様な背景を持つ生徒が学びに向かう場に。変化の激しい時代だからこそ若者のチャレンジを励まし、支える教育が求められる。

私立盛岡夜間中学として創立したのが1924年。時代とともに学校を取り巻く環境は変わり、働きながら学ぶ生徒に代わって近年は学校にない経験をした生徒らのニーズが高まっている。

88年には全国に先駆けて定時制課程に単位制を導入し、現在は通信制との2課程に約430人が在籍。定時制は生徒の学びたい時間に合わせた

若者の一步支え続けて

3部制を取り入れ、興味・関心や進路希望によって科目選択できる。通信制は週1回の登校を基本に、レポートとテストで単位修得を目指す。小中学生での不登校や全日制高校を中退して入学する生徒の中には、学校にネガティブ

な感情を持つ子どもも少なくない。集団生活や人間関係でつまづいた過去から人と関わることにも臆病になりがちだ。授業だけでなく運動会や遠足などの学校行事、部活動といった機会は、同世代と気持ちを分かち合う場となっている

る。生徒の個性を尊重し、きびに力を注ぐのは、この願いが原点にある。生徒は商店街の祭りを手伝って地域の大人を知り、近隣の盛岡視覚支援学校と一緒にスポーツをして共生の意味を考える。他にも小学生にプログラミング授業を行うなど、多世代との交流

を通じて自信を深めている。杜陵高の今とこれからの変わらぬところは、住民らが参画する学校運営協議会では生徒がオプザーバー参加して意見交換する機会もある。学校の主役は生徒。率直な声に耳を傾けた大人に理解と応援の動きが広がるのは、地域に開かれた学校の目指す一つの姿と言えよう。

生徒が抱える困難の形は変わっても、一人一人の成長を共に喜ぶ仲間や教員、保護者がいる。多くの卒業生が各界で活躍しているのも強みだ。自分の道を見つけて歩み出せるように。小さくも価値ある一步に寄り添う学校、そして地域であり続けたい。